

山陰教区 門徒総代会だより

編集・発行：浄土真宗本願寺派山陰教区門徒総代会 会長 竹下正俊
〒690-0002 松江市大正町443の1本願寺山陰教堂 TEL 0852-21-4747 FAX 0852-27-8351



会長あいさつ

〜第一号の発刊にあたり〜

山陰教区門徒総代会

会長 竹下正俊

会報発刊にあたりご挨拶申し上げます。

前会長さんの後を引き継ぎました竹下で御座います。平素は、色々
と教区総代会にご協力ご指導頂き
厚くお礼を申し上げます。

ご存知の様に、寺院を取り巻く
現況は厳しいものがあります。一般
的に、門信徒としての姿勢が問われ
ている今日ではなからうかと思いま
す。

今年は、親鸞聖人七百五十回忌
法要の勤行されるご縁に合わせて
頂く事の喜びを頂き「生かされてい
る」と言う自覚の基に、宗門の発展
に一層の努力を致す考えです。

皆様のご指導を今後とも宜しく
お願い致します。 合掌

ご挨拶

教務所長 野村宗雄

山陰教区門徒総代会の皆さまには平素より門信徒の範として、聴聞にはげみ寺院の護持はもちろん、ひいては宗門のためにご尽力いただいておりますこと厚く敬意を表するところであります。

この度は、教区総代会の機関紙「総代会だより」が、多くの会員の方のご要望から会長をはじめ執行部のご尽力により創刊となりましたこと、まことにご同慶の至りであります。

さて、今年は四月よりいよいよ親鸞聖人七百五十回大遠忌法要がご本山でご修行になります。皆さまもご門徒の先頭に立ってご参拝され、聖人さまにお礼を申しあげられることと存じますが、はるばる上山いたし御影堂を満堂にして、「宗祖讃仰作法」のおつとめを唱和するその勢いを法要後も持続していくことが、私どもの大切なつとめであります。

この度の大遠忌法要を機に推進してきます寺院相互が協力できる教化態勢を整える組画の見直しや、次代に向けての伝道活動であるキッズサンガもご門徒の皆さまの存在、ご協力がなくては意味のないものであります。

ご門主さまは、これからは横のつながりが大切とおっしゃっておりますが、ご門徒どうしの連携を深め、他のご寺院、他の組の活動などにも触れ、また手を取り合うことが、御同朋御同行をめざし、次代へお念仏のみ教えを伝えるうえで重要であり、その意味で総代の皆さまには、ご門徒の中心として広い視野に立ってご活躍いただければと存じます。

この「総代会だより」が、このような活動の一助となり、実のあるものとして継続されますことを念じあげ、お祝いのご挨拶といたします。

念佛のバトン

温泉津組総代会長 上田正吉

一月は各寺でご正忌法要が営まれた。今年は親鸞聖人七百五十回大遠忌の年でもあり、格別に改まった気持ちになったご正忌であった。一月の寺の境内は、銀杏も桜もみな葉を落とし、冬空に向かって裸の枝を指し伸ばしている。その姿は、何とも言えない荘厳な感じを抱かせた。

新年に当り、自分とお寺との関わりを振り返ってみた。私は、父が亡くなってからお寺の総代となり、退職後本格的にお寺の世話をするようになった。そして連研、中央研修と、学ぶ機会に恵まれたことにより、意識も強まり、お寺の法座や会合への参加も意欲的になってきた。お寺の境内に足を入れ、本堂に座して念佛を唱え、香のかおりに包まれてご法話を聞けば自然に心が落ち着き安らいだ気持ちになつてくるから不思議だ。

では、総代長として何をなす

べきか。まず、一人でも多くの人にお寺に来てもらうこと。そのためには、隣近所の人呼びかけて一緒にお参りする。足の不自由なお年寄りには、車で送迎をしてお誘いをする。お寺を敬遠しがちな若い人にも呼びかけてみる。というようなことをしている。そして、法座の始まる前には必ずみなさんに「ようこそお参りいただきまして…」と挨拶をしている。またお寺の側も最近椅子を用意したり、法座のあり方を工夫したり、憩いの時間を設定したりと、魅力あるお寺づくりへの工夫をしていた。等々の奉仕活動を行っている。また、温泉津組では、より多くの方々に報恩講のお参りをしていただくために、四年前から「参拝カード」を作成し、お参りしたお寺でスタンプを押してもらい、六ヶ寺以上の参拝者には組

より表彰される制度を設けた。を受け大変うれしく思った。その効あつて、各寺の報恩講への 今後の課題としては、若い人 お参りも増えてきた。昨年度は をいかにお寺に引きつけるか、念 五十代前半の若い方がこの表彰 佛と聴聞の輪をいかに広げてい

くかである。そして、家庭にあつては、自分の後ろ姿を子や孫達に見せることである。念佛のバトンを子や孫へ、そして地域の若者へとつないでいくことが我々総代の責務であろう。

三地区で研修会を開催 — 合わせ二三四名が参加 —

二〇一〇(平成二十二)年度山陰教区総代研修会が山陰教区三地区(鳥取・出雲・石見)で開催されました。鳥取ブロックは十一月二十九日、因幡組願正寺さまを会場として五十七名のご参加、出雲ブロックは十二月七日、出雲市民会館を会場として一〇二名のご参加、石見ブロックは十二月八日、浜田組覚永寺さまを会場として七十五名のご参加。合計二三四名の皆さまのご参加をいただきました。

各ブロックとも、ご講師は日溪清毅師(山陰教区基幹運動推進委員会副会長、山陰教区組画編成等調整委員会委員長、神門組正蓮寺住職)。テーマは「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要並びに組画編成について」。

いよいよ来年度に迫った親鸞聖人七五〇回大遠忌法要、そして宗門上げて取り組まれる組画編成という事業について日溪師より問題提起がなされ、活発な意見交換が行われました。

ご参加いただいた皆さま、有難うございました。

2010(平成22)年度 山陰教区門徒総代会 会計歳計予算

歳入の部

款	費目	22年度予算額	21年度予算額	対比△減	説明
1	会費	822,000	822,000	0	単価2,000円×411ヶ寺分
2	研修会参加費	345,000	345,000	0	単価1,500円×230名
3	助成金	260,000	260,000	0	本山・教区助成金
4	雑収入	1,265	958	307	
5	繰越金	451,735	522,042	△ 70,307	前年度繰越金
	合計	1,880,000	1,950,000	△ 70,000	

歳出の部

款	費目	22年度予算額	21年度予算額	対比△減	説明
1	研修費	700,000	700,000	0	開催経費(出雲・石見・鳥取)
2	理事会費	180,000	180,000	0	監査・理事会開催経費
3	常任理事会費	100,000	100,000	0	2回
4	教化助成費	520,000	520,000	0	単価20,000円×26組 各組助成金
5	組織強化費	30,000	30,000	0	本山負担金等
6	通信・印刷費	70,000	70,000	0	郵券料等
7	事務費	10,000	10,000	0	事務消耗品等
8	雑費	10,000	10,000	0	
9	連絡協議会費	80,000	80,000	0	中四国連絡協議会派遣経費
10	予備費	180,000	250,000	△ 70,000	
	合計	1,880,000	1,950,000	△ 70,000	

伯耆組・因幡組・鳥取ブロックで

総代研修会を開催

因幡組 西法寺 村上 征男

伯耆組では、七月三十一日に真光寺において、四十名が出席し総代研修会を開催した。

いま教区内で話し合われている新組面構想のなかで、伯耆組として、総代会としてどうあらねばならないかを熱心に話し合った。

研修に先立ち役員予定者による役員会を設け打ち合わせた上で、総会を開き、新役員の承認、総代会会則を制定し、今年度の事業および予算を決定した。



研修は因幡組の総代が講師となり、因幡組では「組全体での総代研修会」として「歎異抄」、「組内各寺院の寺史」、「三業惑乱」、「門徒による三様の靖国論」など組内の共通事案を取り上げ各寺院での「法座研修」のありかたとは異にした総代研修会へと取り組んだ成功事例などを話し、伯耆組でも組内の実情に即した取り組みと話し合いの開始をうながした。

また、現在進行中の組面編成にもふれ、現状を説明し、伯耆組としての有るべき姿さらには、総代会全体として、そして各寺個々の総代としての関心を高め、ご法儀のますますの繁盛を託した。

因幡組では、十月十八日西法寺において、六十三名が出席し総代研修会を開催した。教区組面編成の取り組み状況の説明の後、大遠忌中国ブロック記念公演の「創作劇」善人なおもて往生をとぐー親鸞わが心のアジャセーのDVDを鑑賞後「観無量寿経」の解釈を

聴きながら、親鸞聖人のところを、浄土真宗のこころを分かり易く説かれた丁寧な講話をいただいた。

研修に先立ちご講師には、あらかじめ事前にDVDを鑑賞して頂いた。研修に臨んでの事前打ち合わせは、いまや因幡組総代研修会では自然の流れである。

なお研修会終了後、伯耆組では住職と総代会合同の懇親会を、因幡組では日を改めて住職と総代会役員との懇親会を設けて、組内の信頼感をさらにふかめた。

鳥取ブロックでは、十一月二十九日願正寺において、五十七名が出席し総代研修会を開催した。

教区組面編成をテーマに、組面再編成の基本方針、現行の組面における問題点をあげながら今日までの進捗状況と今後の見通しを聞きその上で、各総代の考えを各分科会ごとに纏め発表した。

そのなかで、伯耆組の発表者が昼食時に組内役員を集め話し合いをした結果、従来の年一回の総代研修会を因幡組の総代研修会に見習い、また因幡組に追いつくために三月に研修会を開催し年二回の実施を力強く宣言した。

編集後記

おかげさまでもちまして、この度、山陰教区門徒総代会会報「総代会だより」を発刊する運びとなりましたこと、厚くお礼申し上げます。

門徒総代の皆さまにおかれましては、寺院護持発展にご尽力をいただいておりますこと重ねてお礼申し上げます。

皆さまご存知の通り、現代社会において寺院を取り巻く環境は過去とは全く違ったものとなっております、門徒総代の皆さまにおかれましては、寺院護持の現場で様々な苦勞がおりのことと存じます。

そういった現況を踏まえ、今年度総代会各組代表者会において、教区内の門徒総代間での情報の共有を図るため、今年度から会報を発刊して欲しいというご意見を頂戴し、編集作業が行われ創刊号が完成しました。

門徒総代の皆さまがそれぞれ取り組んでおられることや課題などをこの会報で共有することで、これからの寺院護持の一助となることを心より念願しております。

今後より一層紙面の充実を図ってまいりますので、忌憚のないご意見等お待ちしております。